

西浦地区
かわら版
第3号西浦地区
まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

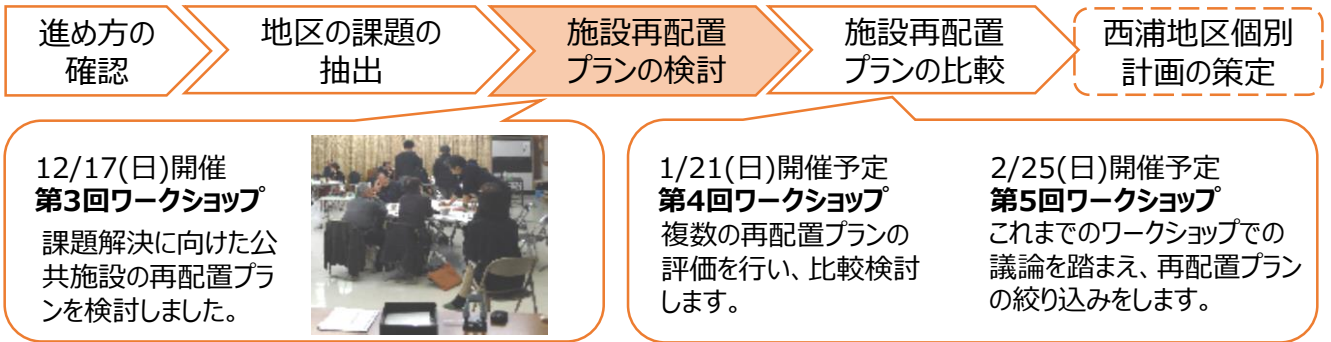
蒲郡市では、今後の人口減少・少子高齢化が進む社会情勢を見据え、公共施設の維持更新費用で将来に大きな負担を残さないため「身の丈にあった」施設保有量に適正化していく取り組みを進めています。

そこで今年度、西浦地区にある公共施設（小学校・中学校・公民館・保育園・児童館）の将来について、地区にお住まいの皆様と協働で考えていく機会として、「西浦地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しています。今回は、12月17日(日)に西浦公民館にて開催された第3回ワークショップの内容をお知らせします。

また、ワークショップで話し合われている内容等についてのご意見を募集しています。いただいたご意見は、ワークショップの場で示し、検討を進めていきます。（最終ページの「お知らせ」をご覧ください。）

検討の進め方

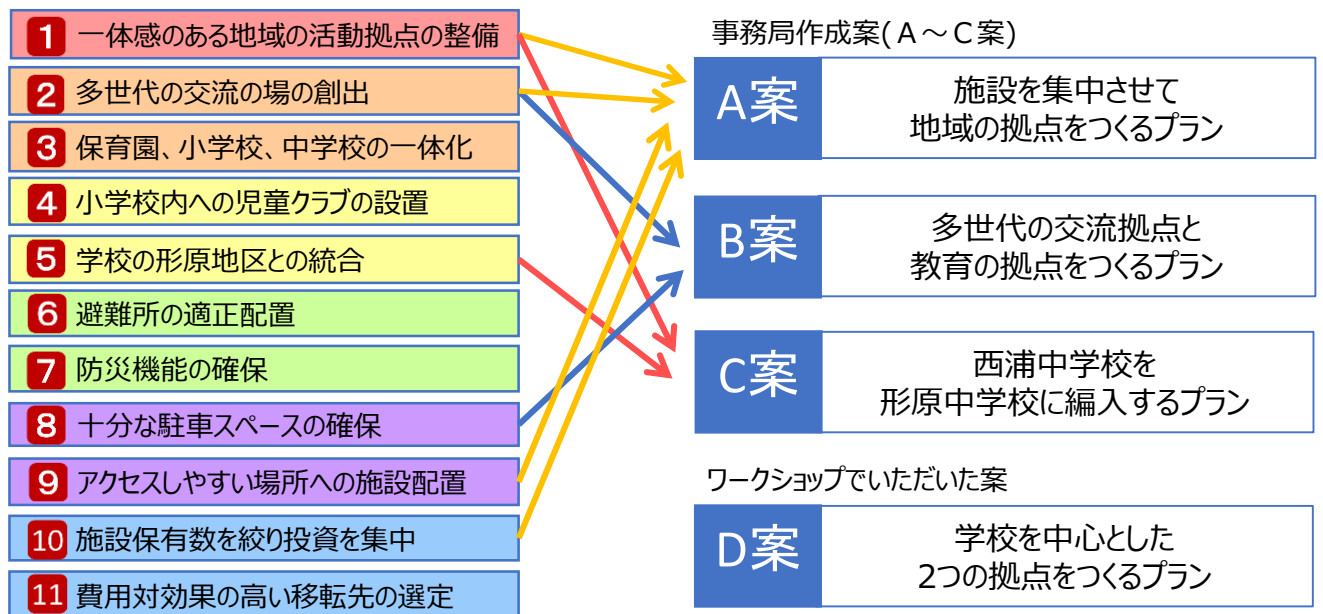
蒲郡市は、このワークショップをはじめ、広く地区の皆様からいただいたご意見を反映させた、西浦地区の公共施設の配置や活用方法を示す「地区個別計画」を策定します。下図のように段階的に検討を進めます。第3回ワークショップでは、「西浦地区の公共施設再配置プラン」と「プランを評価する視点」について話し合いました。



再配置プランの考え方

第2回ワークショップまでの検討内容に基づき、地区の課題の解決策を11個の項目として整理しました。これらを活用して、コンセプトの異なるA～Cの3つの再配置プラン案を作成しました。また、D案は第2回ワークショップで提案された案です。

すべての課題を満足に解決する案を作成することは困難ですが、複数のプランを比較しながら、より多くの課題を解決する再配置プランはどういったものか、検討していく必要があります。



※ 矢印は、解決策のうち特に重視した解決策と再配置プランとの関係性を表しています。

※ 再配置プランの作成にあたって、蒲郡市公共施設マネジメント実施計画で定めた主な手法を活用しています。

複合化:異なる機能を1カ所に集中 集約化:同一用途・同一機能の施設を1カ所に集中 老朽対策:改築・改修

4つの再配置プラン案についての議論内容

第3回ワークショップでは、これまでワークショップでいただいた意見をもとに作成した4つの再配置プラン案について議論しました。それぞれの案について、期待されること、懸念されることのご意見をいただきました。（○：期待 ●：懸念）

A 施設を集中させて地域の拠点をつくるプラン

- 西浦小学校に、西浦中学校、西浦保育園、にしうら児童館、西浦公民館を複合化

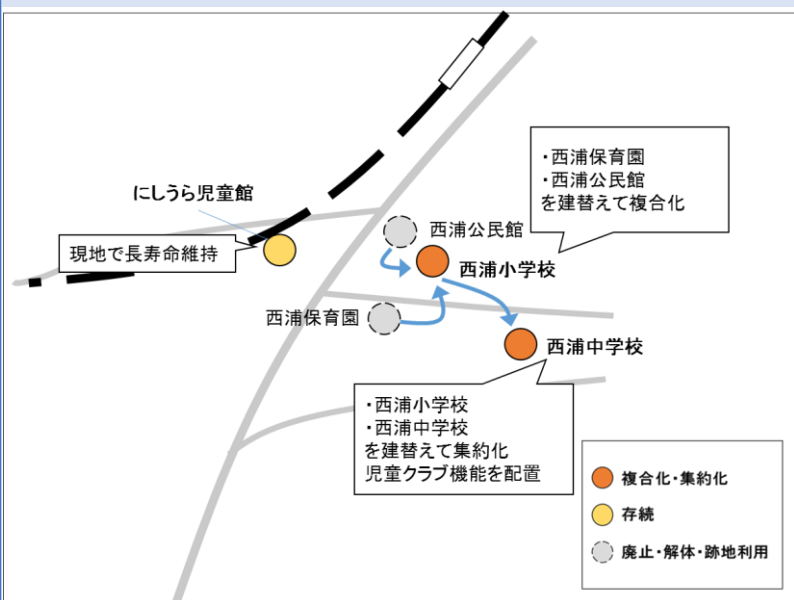


【議論の内容】

- 歳の離れた子ども達や、子どもと大人・高齢者が交流する機会が増える。
- 運動会などの行事を合同で開催することで人数が増え、盛り上がりそう。
- 異年齢で一緒に学校に通えると便利。
- 1ヶ所に機能が集中することで、利用者は何かと便利になるのではないかな。
- 西浦のランドマークができることで、情報が伝わりやすく一体感が生まれる。
- 人件費などの経費節約が期待できる。
- 園児が騒がしいと中学生の学習の支障とならないかな。
- 地域交流の場と教育の場の棲み分けが不安。
- 学校の体育館やグラウンド、駐車場が十分確保できるのか。
- 多くの機能を1ヶ所に集めることで、混雑するか、施設が手狭になつたりしないかな。
- 人の出入りが集中して、動線確保などの安全上の懸念がある。
- 1つの拠点に集中することで、交通格差が拡大する。
- 人の配置や施設管理面で混沌としないかな。

B 多世代の交流拠点と教育の拠点をつくるプラン

- 西浦小学校の敷地に西浦保育園、西浦公民館を複合化
- 西浦中学校に西浦小学校を集約化

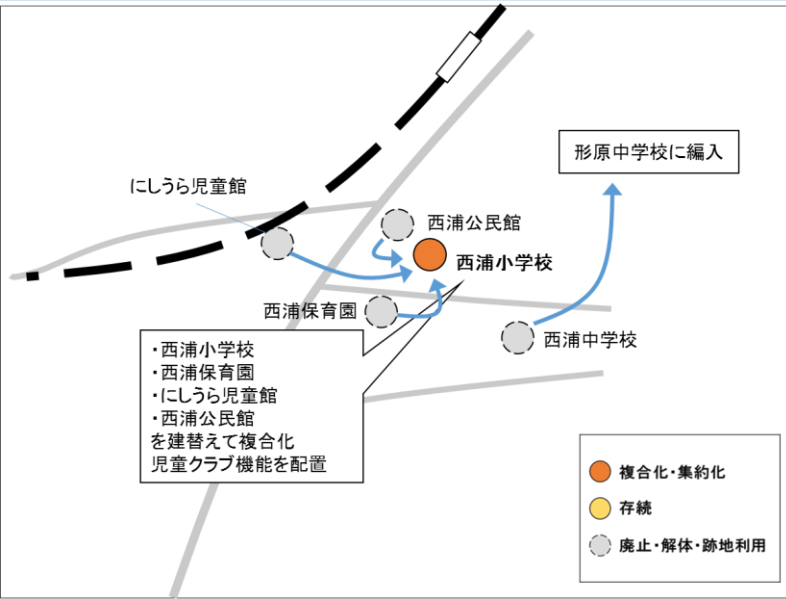


【議論の内容】

- 保育園と公民館が複合化されることで、園児と高齢者の交流や、保護者の公民館利用が期待できる。
- 高台にある中学校敷地を津波時の避難所として活用できる。
- 建物が新しいにしうら児童館を有効活用しているという点で評価できる。
- まちを見渡せる高台に学校があることは、子どもたちのまちへの愛着を育むことができる。
- 中学校の敷地は小学生が通うには大変である。（「慣れれば負担は小さい。」「足腰が鍛えられてよい。」という意見もあった。）
- 中学校周辺は民家や外灯が少なく、防犯上好ましくない。
- 小中学校両方の敷地を使って建替えるため、将来負担はA案やC案より大きくなりそう。
- 小学校敷地に保育園と公民館の複合化だけでは土地がもったいない。
- グラウンドが狭く、人数が多くなると部活動に影響が出そう。

C 西浦中学校を形原中学校に編入するプラン

- ・西浦中学校を形原中学校に編入
- ・西浦小学校に西浦保育園、にしうら児童館、西浦公民館を複合化

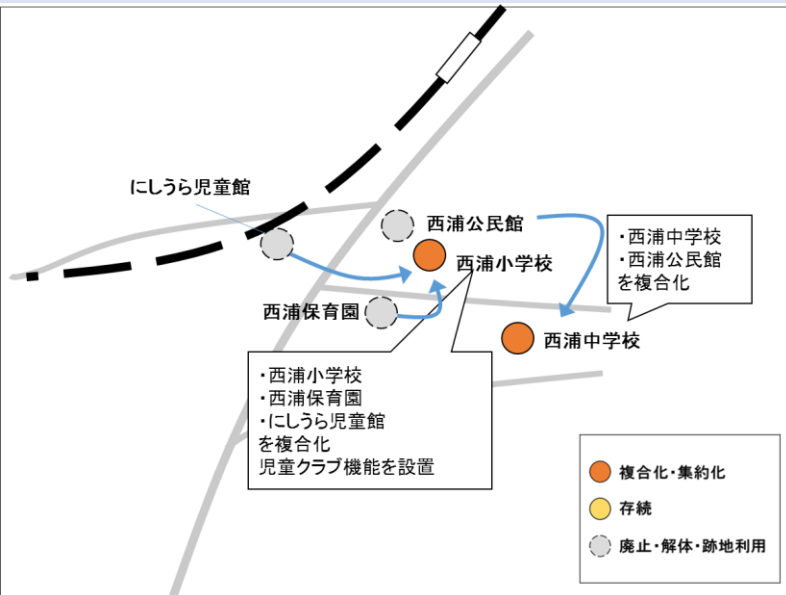


【議論の内容】

- 将来負担（コスト）が最も少なくなりそうだ。
- 中学生の部活動の選択肢が増える。
- 西浦中学校は人数が少ないことで学力の面での不安があり、形原中学校と一緒にするとよい面もある。
- 1ヶ所に機能が集中し、何かと便利になるのではないかな。
- 1ヶ所に集中することで、行事が賑やかになり、多世代交流も促進されるのではないかな。
- 西浦中学校がなくなるのは心情的に寂しい。
- 中学校が西浦地区からなくなり、他施設も1ヶ所にまとめられるため、西浦が将来発展することを否定しているようなイメージがある。
- 形原中学校は遠く、個々での登下校は不安。スクールバスなど通学手段の確保が必要だし、自転車で通うにも道路が整備されておらず、危険だ。
- 西浦と形原では地域の人々の考え方・気質が違う。中学校を編入させると子ども同士の対立が心配。
- 西浦の地域性が失われるように思う。
- 新居を建てる際に形原に移住する人が増えそう。

D 学校を中心とした2つの拠点をつくるプラン

- ・西浦中学校に西浦公民館を複合化
- ・西浦小学校に西浦保育園とにしうら児童館を複合化



【議論の内容】

- 中学校敷地を津波時の避難場所として活用できる。
- 西浦中学校は非常時発電システムもあり、残す価値がある。
- 中学生は地域住民とコミュニケーションをとるのにちょうどよい年齢だ。異年齢との交流の点で、公民館と中学校の併設はよい。
- 高いところと低いところに多世代交流のまちの拠点ができるのは防災面でよい。
- 中学校と公民館を複合化するメリットがあまりないと思う。高齢者と中学生が交流するか？
- 将来負担（コスト）が最も大きくなりそうだ。
- 高台に公民館をもってくるのは、高齢者の利用を考えると大変で無理がある。
- 交通の便が悪く、公民館の利用者が減ると思う。
- 教育の負担が大きいだろう。小中一貫のほうが教育の質が担保されると思う。

【各案共通の議論の内容】

- ・児童館の建物を再活用するならば、第二公民館のように生涯学習や住民交流の場として活用するとよい。
- ・コミュニティカフェや朝市のような新しい地域拠点機能を今回の再編に合わせて設けるようにしたい。
- ・道の駅のような地域の観光物産を売る拠点ができると、観光産業の活性化に役立ち、農家や高齢者など出品者の生きがいづくりになる。

再配置プランを評価する7つの視点

第3回ワークショップでは、再配置プランを評価する指標として、これまでのワークショップでのご意見をもとに整理した西浦地区の皆様が大切だと思っている7つの視点を活用することを確認しました。これらの視点にもとづいて、再配置プランの評価・比較を行い、絞り込みを進めていきます。

① 地区の活性化(まちづくり)

- ・様々な世代が利用でき、イベントにも活用できる地域の活動拠点・交流拠点が整備されているか。

② 人口減少・少子高齢化社会への対応

- ・高齢者のコミュニティの場は確保されているか。
- ・様々な世代、地域の方が交流できる場は確保されているか。
- ・子ども同士の交流や、地域で子どもを見守る環境など子育てしやすい環境が整備されているか。

③ 教育環境の適正化

- ・児童にとって使いやすい児童クラブが整備されているか。
- ・教育環境の向上が期待される複合化、施設配置となっているか。(選択や競争、多くの人と接する機会があるか。)

④ 災害時の対応

- ・避難所の数・機能・位置は適切か。
- ・災害時に安全に子どもを引きとることができるか。

⑤ アクセス性への配慮

- ・各所から通いやすい施設配置となっているか。特に車を持たない方や児童生徒の通学に配慮されているか。
- ・駐車スペースは十分に確保されているか。

⑥ 将来負担(コスト)の縮減

- ・維持更新費用・運営費用は縮減されているか。
- ・跡地は有効に活用されているか。

⑦ 運営の改善

- ※再配置を実施後に配慮しなければならない事項(付帯事項)として整理します。

皆様のご意見をお聞かせください!!

オープンハウスのご案内

①会場：にしうら児童館 玄関ホール

日時：平成30年1月10日(水) 午前9時から正午まで

②会場：名鉄西浦駅 駅舎(名鉄蒲郡線)

日時：平成30年1月12日(金) 午後3時から午後7時まで

- ワークショップの参加者のみならず、広く西浦地区の皆様からのご意見をいただく機会として、オープンハウス(パネル展示型説明会)を開催いたします。
- 会場では、ワークショップでの議論の内容などをパネル展示をもとに職員が説明いたします。①・②の両会場ともパネル展示の内容は同様ですので、ご都合のよい会場まで、お気軽にお立ち寄りください。



お知らせ

地区の皆様のご意見を募集しています。

- **ワークショップで検討されている内容について**
- **西浦地区のまちづくりや公共施設について**

次回ワークショップは、

**1月21日(日) 午後1時30分から
西浦公民館 2階 講堂** で行います。

ご意見をお聞かせくださる方や、傍聴をご希望の方は、右のお問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ先

蒲郡市総務部財務課 公共施設マネジメント担当
〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号
TEL 0533-66-1158/FAX 0533-66-1183
E-mail zaimu@city.gamagori.lg.jp

ワークショップでのご意見や資料等は、市ホームページに掲載しています。

<http://www.city.gamagori.lg.jp/unit/zaimu/machizukuri-kokyoshisetsu.html>